

特別支援教育について

「学びの場」について

児童生徒の「学びの場」としては・・・

- 通常の学級
- 通常の学級に在籍し、通級指導教室を利用する。
- 特別支援学級（知的障がい、自閉症・情緒障がい）
- 県立特別支援学校

「通常の学級」の状況(全国) R4年調査

	推定値(95%信頼区間)
学習面又は行動面で著しい困難を示す	8.8% (8.4% ~ 9.3%)
学習面で著しい困難を示す	6.5% (6.1% ~ 6.9%)
行動面で著しい困難を示す	4.7% (4.4% ~ 5.0%)
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	2.3% (2.1% ~ 2.6%)

【参考】

H24年調査結果「学習面又は行動面で著しい困難を示す」:6.5%、「学習面で著しい困難を示す」:4.5%、「行動面で著しい困難を示す」:3.6%、「学習面と行動面ともに著しい困難を示す」:1.6%

「通常の学級」の状況(本町)

具体的な数値はないが、町内においては、

1クラスあたり 3～4人 (7.5%～10%)

【具体例】

- ・机の周りに持ち物が散乱している。
- ・椅子にしっかりと座れない。立膝をついたり、中腰になったりしている。
- ・離席して、後ろのロッカーに入っている。
- ・友だちへの暴言を吐いたり、手が出てしまったりする。
- ・黒板の文字をノートに書き写せない。
- ・教科書をすらすら読むことができない。

など・・・

「通常の学級」の状況(本町)

R8年度小学校入学予定児童の就学相談から・・・

- ・けいれんの既往歴のある児童・・・過去心停止2回あり
- ・胎児期に脳梗塞を起こし、手足に若干の麻痺のある児童
- ・指定難病に罹患している児童
- ・超低出生体重児(1,000g未満)の児童が数名

など

特別支援教育支援員の配置

現在、町内の各小・中学校には、特別支援教育支援員、特別支援教育補助教員を配置している。

- ・特別支援教育支援員 ： 18名（全小中学校配置）
- ・特別支援教育補助教員 ： 1名（三股中学校のみ配置）

「通級指導教室」について

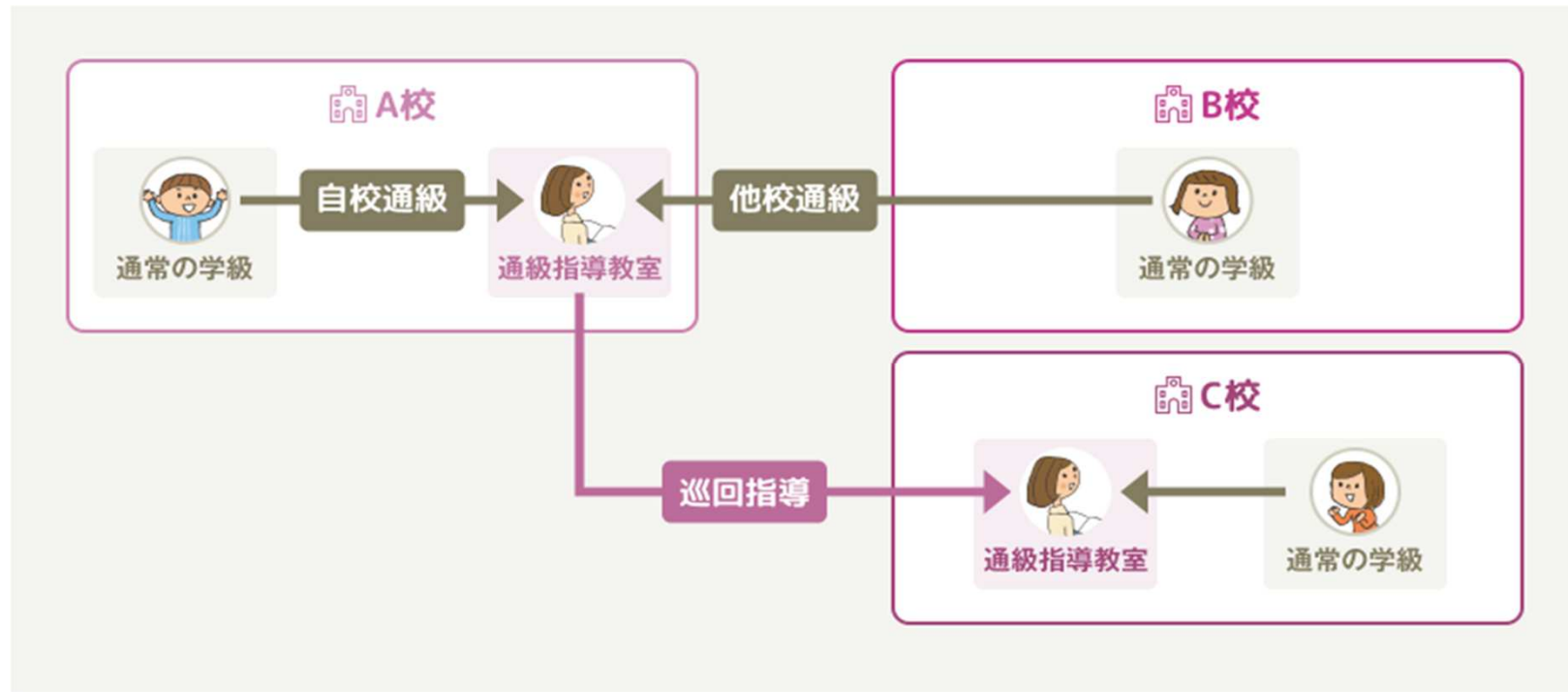
「通級指導教室」とは、通常の学級に在籍しながら、障がいや特性に応じた特別な支援を受けられる教室のこと。

週に1～2時間だけ、別の教室あるいは、別の学校に通い、個別の指導を受ける仕組み。

【対象となる児童生徒】

- ・学習障害(LD)、注意欠如多動症(ADHD) ..「LD・ADHD」通級指導
- ・言語障害 ..「言語障がい」通級指導
- ・自閉スペクトラム症(ASD) ..「情緒障がい」通級指導
- ・弱視、難聴など ..「特別支援学校」等
- ・診断はなくとも、学習や生活に困難さを抱える場合・困難さに応じて

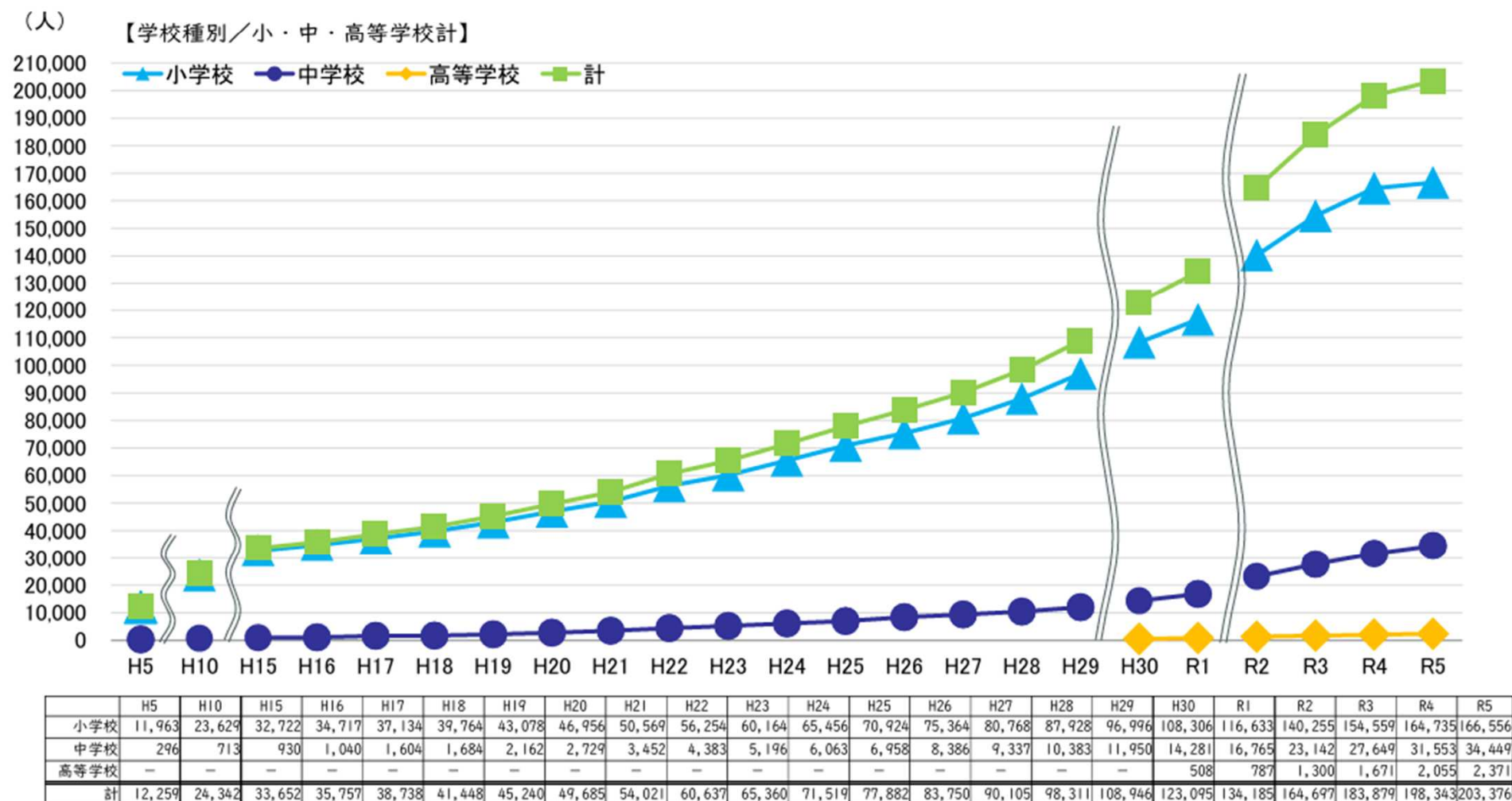
「通級指導教室」について



- ① 自校通級・・・児童生徒が在籍する学校に通級指導教室が設置されており、その教室に行って、指導を受ける形態
- ② 他校通級・・・在籍する学校に通級指導教室が設置されておらず、他の学校に設置されている通級指導教室に定期的に通って、指導を受ける形態
- ③ 巡回指導・・・通級による指導の担当教員が、該当する児童生徒のいる学校に趣、場合によっては複数の学校を巡回して、指導を行う形態

通級による指導を受けている児童生徒数の推移【学校種別・国公立立計】

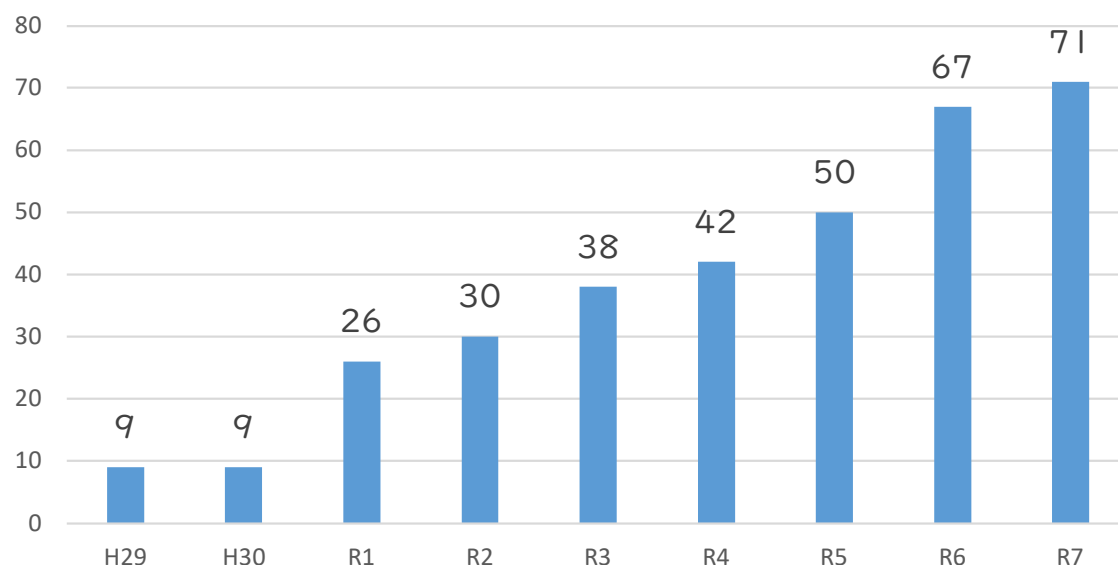
○通級による指導を受けている児童生徒数は全国で203,376人（前年度比+5,033人）
（小学校・中学校・高等学校に在籍する児童生徒数に占める割合は1.7%（前年度：1.6%））



【出典】R5年度通級による指導実施状況調査

通級による指導を受けている児童生徒数推移 【町内：小学校】

通級利用児童数【小学校】（人）



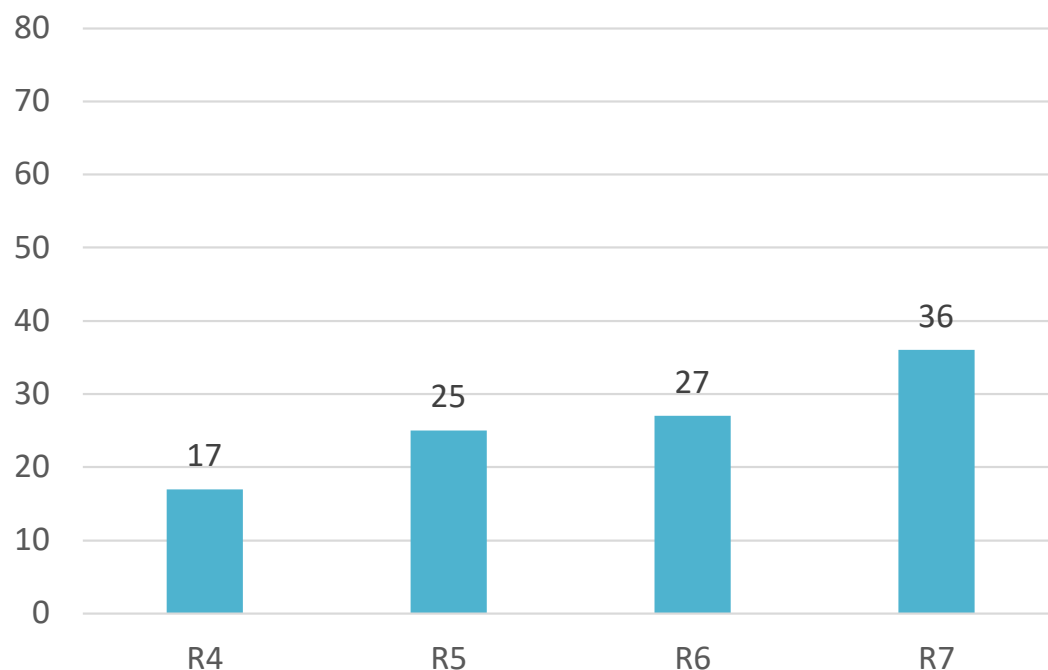
通級指導教室設置経過

- ・H29年度 三股小 LD・ADHD
- ・R1年度 三股西小 情緒障がい
- ・R4年度 三股小 言語障がい
- ・同年 三股中 LD・ADHD
- ・R5年度 三股中 LD・ADHD（増設）
- ・R7年度 三股西小 情緒障がい（増設）

学校名	障がい種	指導形態	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
三股小	LD/ADHD	自校	2	3	5	8	11	13	15	19	24
		他校	7	6	6	4	4	3	5	6	3
	言語障がい	自校	0	0	0	0	0	9	9	14	16
		他校	0	0	0	0	0	3	2	4	5
三股西小	情緒障がい	自校	0	0	15	16	19	12	18	20	20
		他校	0	0	0	2	4	2	1	4	3

通級による指導を受けている児童生徒数推移 【町内：中学校】

通級利用生徒数【中学校】（人）



三股中は、R4年度に初めて通級指導教室が開設された。

それまでは、都城市内の中学校へ通う必要があり、移動時間も含めると約3時間を費やすことになっていた。

R4年度に校内に設置されたことを機に、利用する生徒数が増加している。

学校名	障がい種	指導形態	R4	R5	R6	R7
三股中	LD・ADHD	自校	17	25	27	36
		他校	0	0	0	2

「巡回による通級指導」について

【これまでの通級指導】

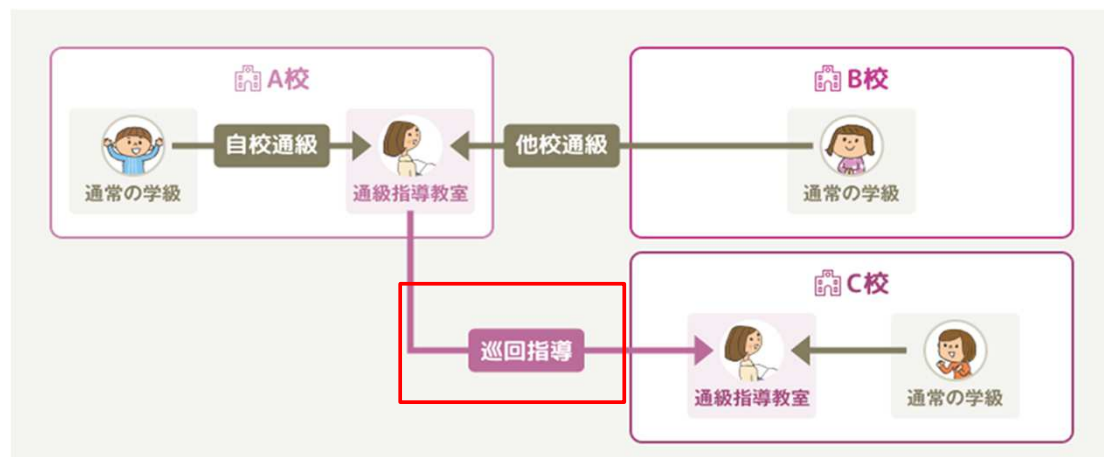
通級指導教室のない学校に在籍する児童生徒は、在籍校を離れて他校に設置された通級指導教室に保護者等の送迎により通い、指導を受けている。

家庭の事情等で通級指導教室設置校に通うことのできない児童生徒がいる状況である。



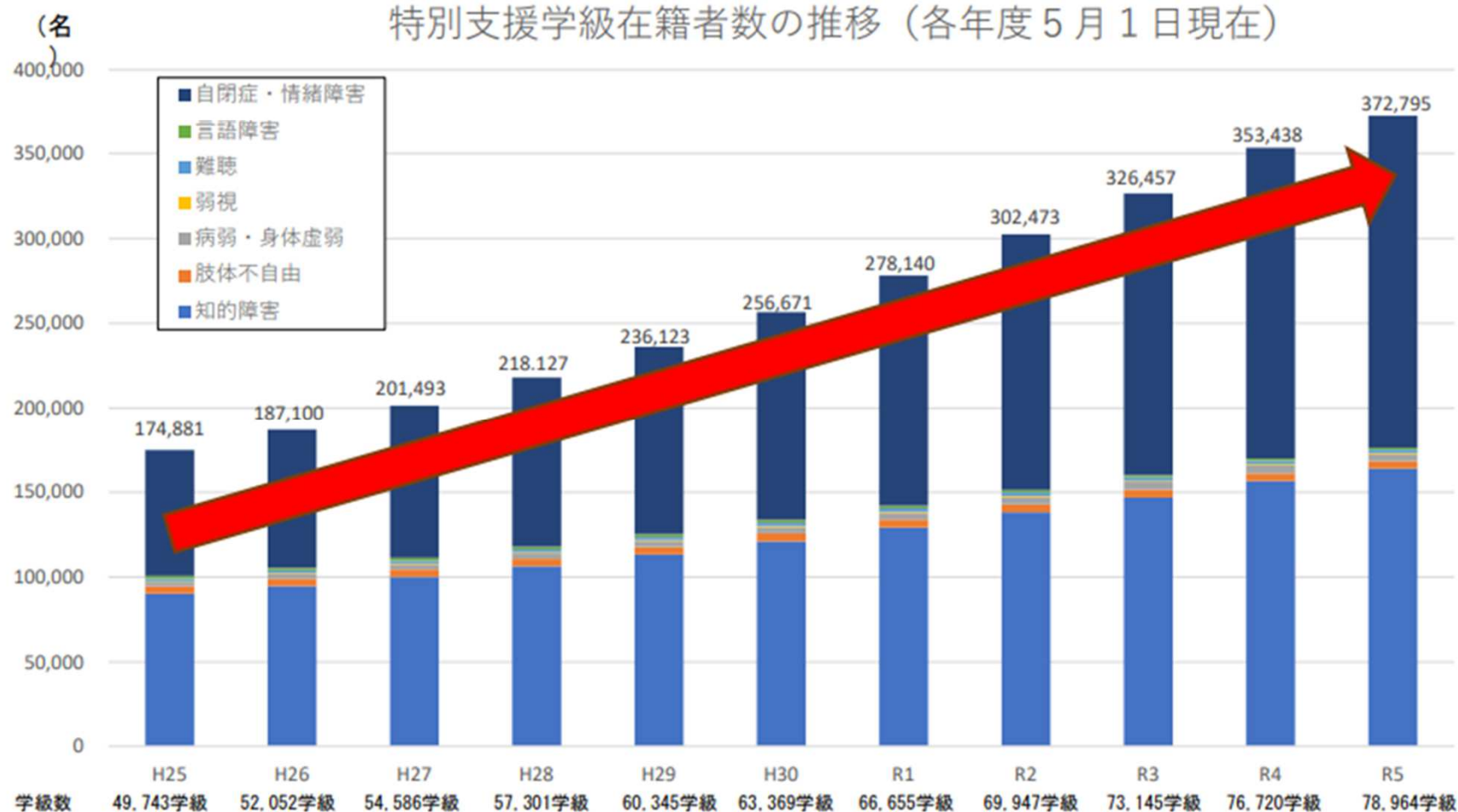
【これからの通級指導】

困難さのある児童生徒は、全ての学校に在籍していると推定し、学習上又は生活上の困難さに対応した特別の指導を受けられる巡回による通級指導体制を整備する。



特別支援学級の児童生徒数・学級数

特別支援学級在籍者数の推移（各年度5月1日現在）



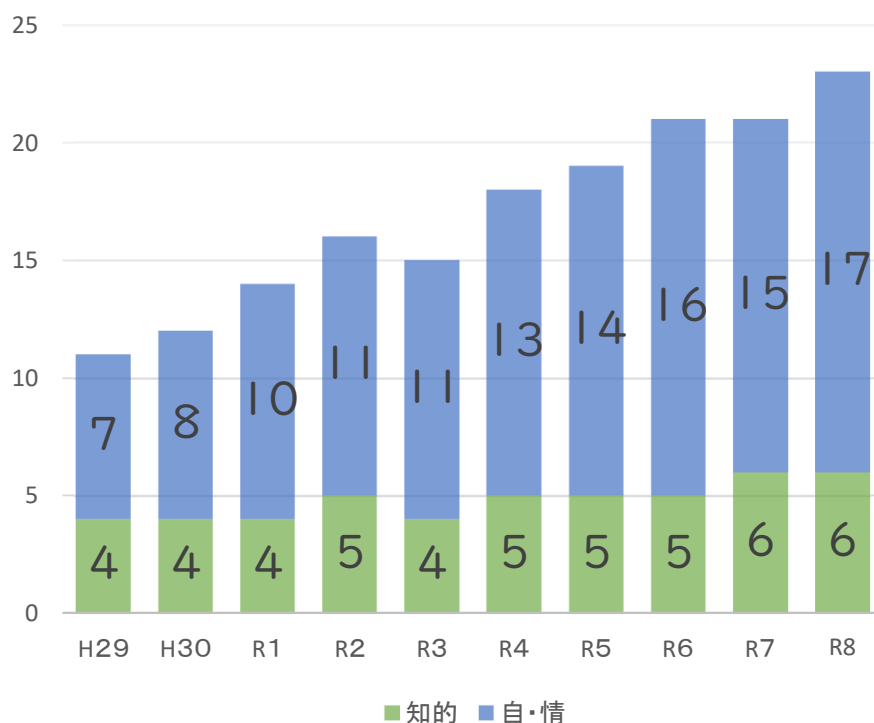
【令和5年度の状況】

	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	弱視	難聴	言語障害	自閉症・情緒障害	計
学級数	33,206	3,146	2,841	532	1,354	649	37,236	78,964
在籍者数	164,036	4,419	4,200	592	1,837	1,209	196,502	372,795

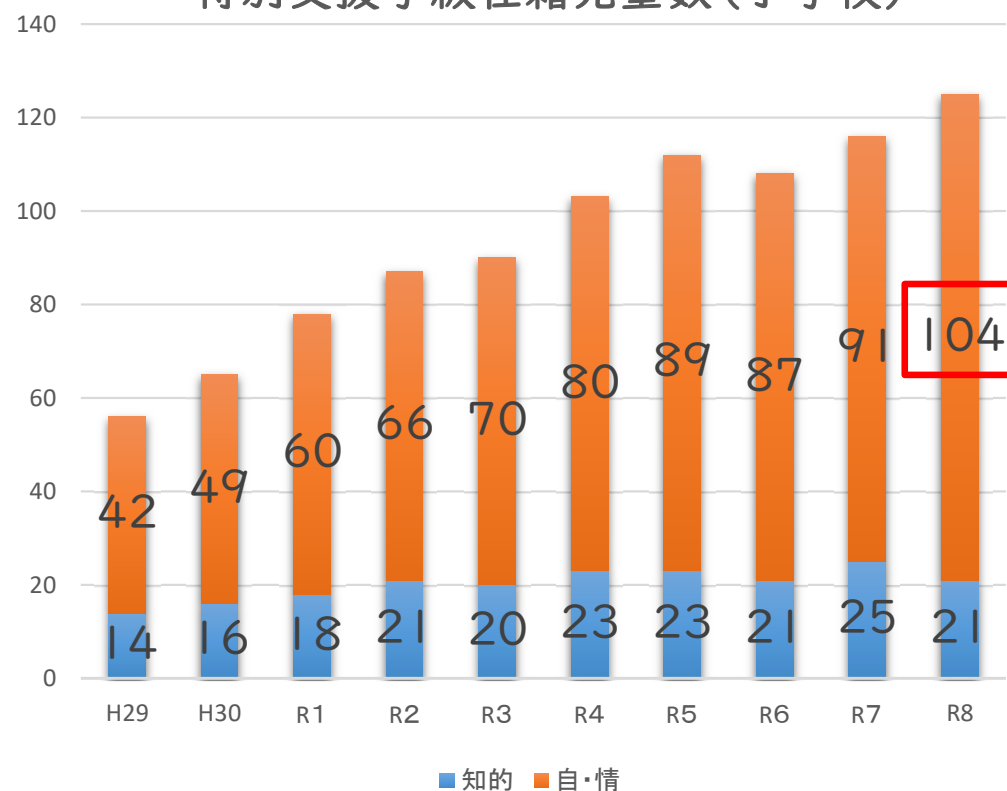
(出典)学校基本調査

特別支援学級数・児童数推移【町内：小学校】

特別支援学級数(小学校)



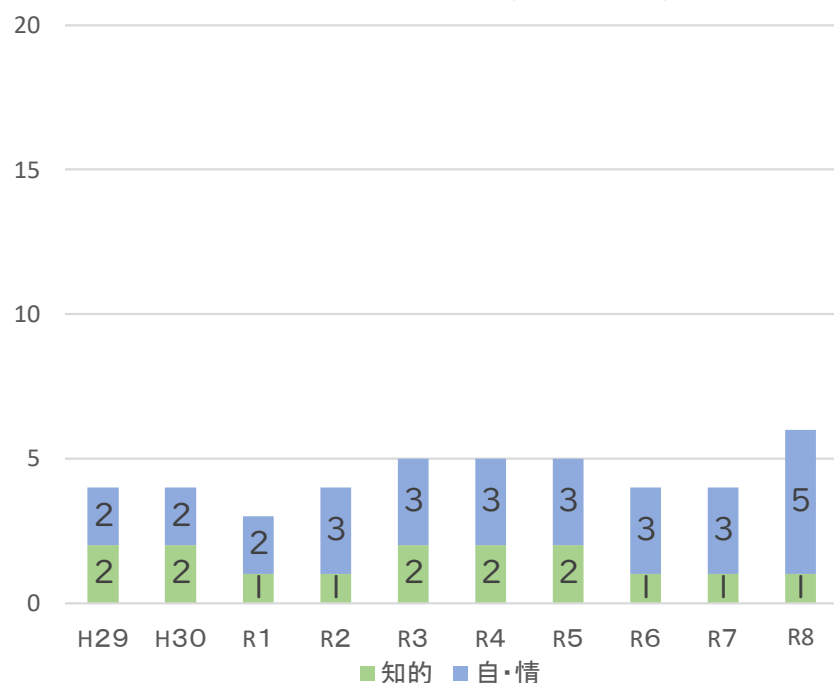
特別支援学級在籍児童数(小学校)



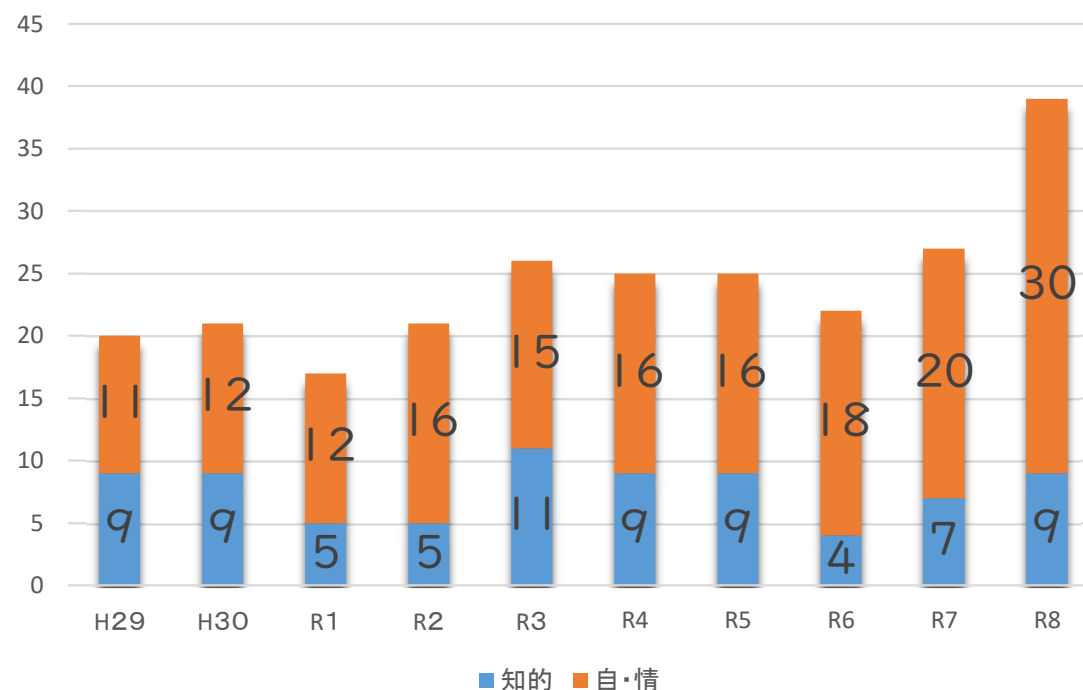
○R8年度(仮)はH29年度と比較して、学級数は12学級増で約2倍、在籍児童数は、69人増で約2.3倍

特別支援学級数・児童数推移【町内：中学校】

特別支援学級数（中学校）



特別支援学級在籍生徒数（中学校）



○R8年度（仮）はH29年度と比較して、学級数は2学級増で1.5倍、在籍生徒数は、19人増で約2倍

「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」

学習指導要領では、特別支援学級や通級による指導において、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成することが**義務付け**られている。

○「個別の教育支援計画」

障がいのある児童生徒一人ひとりのニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えのもと、乳幼児期から学校卒業後まで一貫して的確な教育的支援を行うために作成される計画

「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」

○「個別の指導計画」

障がいのある児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために個別の教育支援計画や学習指導要領などを踏まえ、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、**指導目標や指導内容などをより具体的に明記した計画**である。

「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の違いとは・・・

【個別の教育支援計画】

保護者、教育、心理、医療、福祉、労働などの関係機関・関係者が子どもの生涯にわたって連携協力して支援するためのツールで、**長期的な視点で作成するもの。**



【個別の指導計画】

児童生徒の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるもので、教育課程を具体化し、一人ひとりの**指導目標・内容・方法を明確にして、きめ細かに指導するために作成するもの。**

課題

- 通常の学級に在籍する困難さを有する児童生徒の増加に伴い、パニック時や他者とのトラブル時の対応などが難しい。
- 特別支援学級や通級を利用する児童生徒の増加に伴い、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成するための業務負担が大きい。
- 児童生徒の実態把握をすることが難しい。
- 見立てや計画を日々の支援や指導につなげることが難しい。
- 小学校→中学校、中学校→高等学校等への引継ぎが難しい。
など

今後の対応策

教育ソフトの導入

特別支援教育や障害福祉領域において複数の事業を展開している株式会社LITALICOが提案している教育ソフトを導入したい。

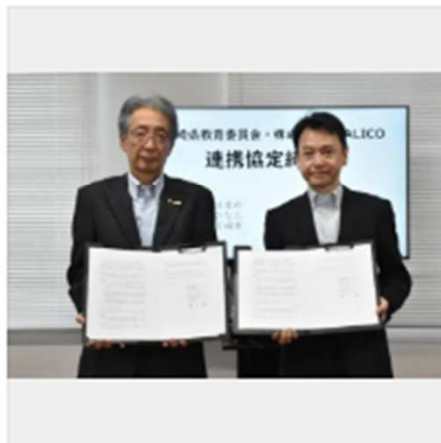
本ソフトを導入することにより、個別の各種計画の作成や日々の指導までの一体的なサポートを受け、児童生徒への支援及び指導の質の向上や教員の業務負担軽減が見込まれる。

(株)LITALICOとの連携について

通級指導でソフト活用 宮崎県教委と都内企業協定

8/23(土) 10:06 配信 1 1

宮崎日日新聞
MIYANICHI e PRESS



協定書を手にする吉村達也県教育長
(左)とLITALICOの亀田徹
シニアバイスプレジデント

県教育委員会と障害者支援事業を手がける「LITALICO」(東京)は22日、特別支援教育の充実を目的とした包括連携協定を締結した。同社の教育ソフトを活用し、県立高の「通級指導」支援などを行う。

宮崎県教育委員会(特別支援教育課、高校教育課)は、令和7年8月に、連携協定を締結している。

導入について

(株)LITALICOの提案内容

○トライアル導入

- ・モデル校(3校まで)に教育ソフトを導入し、有用性を検証するための試験的な導入。
- ・トライアル導入期間中は、本格的に導入をするか否か、効果を見定めていく期間としているため、システム利用料やサポート費用は一切発生しない。

支援員の配置について

学校名	R7年度	R8年度予定	増減
三股小学校	4名	5名	+1
勝岡小学校	3名	3名	±0
梶山小学校	1名	1名	±0
宮村小学校	2名	2名	±0
長田小学校	1名	1名	±0
三股西小学校	5名	5名	±0
三股中学校	2名	3名	+1
合計	18名	20名	+2

増加理由

- 三股小・・・通常の学級にけいれん等の発作があり、心停止の既往2回の児童が入学する。
支援学級には、ナルコレプシー（過眠症）（町内では他にいない）の児童が入学する。
- 中学校・・・支援学級がこれまでの4学級から7学級へ増加し、奇声を発したり、自傷他害のある生徒が入学する。